



TITLE:

食料問題と開墾助成計畫

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 食料問題と開墾助成計畫. 經濟論叢 1919, 8(3): 407-426

ISSUE DATE:

1919-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/127497>

RIGHT:

食料問題と開墾助成計畫

河 田 嗣 郎

一 國民食料問題の本態

現今食料問題の喧しきに就けて我國に於ける國民主要食料品の將來の供給狀態に關して少からざる憂慮の表はれ來りたるやうである。固より此の問題は今に始まりたる問題にはあらず、日露戰爭以後我が國民經濟が急に膨脹して、人口の増加、生産の發達、消費の増進といふが如き事實の著しく顯はれ來りたるに、一面主要食料品の増産の勢到底之に伴ふ能はず、特に米穀の供給狀態比年不足勝となり、米價騰貴の大勢が動かし難き勢として馴致さるるに至りてよりは、此の問題は識者間に於ても當局者の間に於ても、毎に研究の題目となつて居たのである。勿論其間には波動的に米價の高低一樣ならず、大勢は依然騰貴の勢を改めずとも時に或は米穀供給潤澤の爲めに米價の下落を來し、殊に大正三、四年に於ける大下落の時の如きに際しては、問題は却つて如何にして米價を相當に高貴ならしむるを得可きかと云ふ問題に變じたる有様であつた。けれども今や又問題は元の本筋に歸つて、米麥特に米穀の供給不足に苦み米價の法外なる騰貴に苦み、差當りての問題として、其の供給及び價格調節を如何にす可きかの熱心に致へらるるに至れると同

時に、將來永きに涉る問題として我が國民の主要食料を如何にす可きかと云ふ頗る重要にして且つ意義深刻なる問題が國家的に講究解決せられなければならぬこととなつた。

されば今回の問題は曩の大正三、四年の頃に於ける一時的變態問題とは變りて、我が國民食料に關する永久的本態問題たること、先づ注意を要する所である。

二 國民食料需給狀態の將來

我が國民食料の需給狀態に不權衡を生じてより現今に至るまで内地に於ける供給能力の不足は米穀に於て大抵年額二百萬石乃至五百萬石位のものであつたが、少しく永きに涉つて將來の狀態に就きて之を見れば、現在の速度を以てする人口の増加と之に伴ふ食料需要の増加豫想と、現在の狀況より之を推して考へらるる食料供給の豫想とは、年と共に其の不適合の度を増し、今後二十年にして米穀の不足量は二千萬石、麥の不足量は九百萬石に及び、三十年の後に於ては其の不足量米は三千二百餘萬石、麥は千四百餘萬石に及ぶ可しと推算せられて居る。

吾人は其の狀況を國民一般と共に推知せんが爲めに、此所に試に政府當局の計算に依る豫定表を示して、問題の一般を了解するに便するであらう。

先づ現在の増殖歩合を以て進む人口増加の豫定と、現在の不足量を基礎とし人口増加に伴ふ消費増加より生ずる米麥供給量の不足豫定とを、今後三十年に涉る各年次に就きて示せば、左表の通りである。

第一表 米麥消費豫定高表

年次 年 號	人 口	增加人口	增加人口 累 計	米		麥	
				現在不足 計(一人當 0.5601)	不足合計	現在不足 計(一人當 0.5601)	不足合計
一 現 在	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
二 大正八年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
三 同 九 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
四 同 一〇 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
五 同 一一年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
六 同 一二年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
七 同 一三年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
八 同 一四年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
九 同 一五年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一〇 同 一六年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一一 同 一七年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一二 同 一八年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一三 同 一九 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一四 同 二〇 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一五 同 二一 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一六 同 二二 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一七 同 二三 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000
一八 同 二四 年	5,821,218	810,770	810,770	1,828,000	1,000,000	1,828,000	1,000,000

時事問題 食料問題と關聯助成計畫

三 食料生産増加計畫

右示すが如き困難を救ふの道としては、一方に於ては國外よりの食料供給を豊かにする方法を講ずると同時に、他方に於ては我が國內に於ける主要食料品の生産増加を計る方策を立つるを必要とすること、誰の目にも明かなる所である。而して問題の重點は實に此の補給の道を如何にして滑かにするか、其の實際方法を如何に立つるかと云ふことに存するや言を俟たざる所である。

茲に於てか我が政府は右に關する一實行方策として、國內に於ける米麥生産増加を計る目的を以て現耕地の改良及び未墾地の開發を十分に行はしむるの計畫を建て、此際差當り内地の現耕地改良見込地積百萬町歩の内八十二萬五千町歩を改良し、同時に内地の耕地擴張見込地積百二十二萬町歩の内、從來の施設に依りて五十七萬五千町歩を開發する旁、新たに開墾助成法を設け十五ヶ年計畫を以て速かに二十五萬町歩を開墾し、又更に北海道に於ける耕地擴張見込地積七十三萬町歩の内六十二萬町歩を開發するの方策を行はんとすと傳へられて居る。

此の計畫の行はるものとして政府の見込に依る將來の米麥生産増加と、之に依りて生ずる米麥需給全般の適合關係とは、又之を圖表にて示せば左の通りである。先づ米穀の増收豫定表を示し、次に麥の増收豫定を見、最後に其の増收見込の下に於ける米麥需給對照表を示すであらう。

第二表 米の増收豫定高表

年次		面積		開墾地		農事改良		耕地擴張		朝鮮及臺灣の移入		總計
千町	平方町	千町	平方町	千町	平方町	千町	平方町	千町	平方町	千町	平方町	千町
1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1
2	200	2	200	2	200	2	200	2	200	2	200	2
3	300	3	300	3	300	3	300	3	300	3	300	3
4	400	4	400	4	400	4	400	4	400	4	400	4
5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5	500	5
6	600	6	600	6	600	6	600	6	600	6	600	6
7	700	7	700	7	700	7	700	7	700	7	700	7
8	800	8	800	8	800	8	800	8	800	8	800	8
9	900	9	900	9	900	9	900	9	900	9	900	9
10	1000	10	1000	10	1000	10	1000	10	1000	10	1000	10
11	1100	11	1100	11	1100	11	1100	11	1100	11	1100	11
12	1200	12	1200	12	1200	12	1200	12	1200	12	1200	12
13	1300	13	1300	13	1300	13	1300	13	1300	13	1300	13
14	1400	14	1400	14	1400	14	1400	14	1400	14	1400	14
15	1500	15	1500	15	1500	15	1500	15	1500	15	1500	15
16	1600	16	1600	16	1600	16	1600	16	1600	16	1600	16
17	1700	17	1700	17	1700	17	1700	17	1700	17	1700	17
18	1800	18	1800	18	1800	18	1800	18	1800	18	1800	18
19	1900	19	1900	19	1900	19	1900	19	1900	19	1900	19
20	2000	20	2000	20	2000	20	2000	20	2000	20	2000	20
21	2100	21	2100	21	2100	21	2100	21	2100	21	2100	21
22	2200	22	2200	22	2200	22	2200	22	2200	22	2200	22
23	2300	23	2300	23	2300	23	2300	23	2300	23	2300	23
24	2400	24	2400	24	2400	24	2400	24	2400	24	2400	24
25	2500	25	2500	25	2500	25	2500	25	2500	25	2500	25
26	2600	26	2600	26	2600	26	2600	26	2600	26	2600	26
27	2700	27	2700	27	2700	27	2700	27	2700	27	2700	27
28	2800	28	2800	28	2800	28	2800	28	2800	28	2800	28
29	2900	29	2900	29	2900	29	2900	29	2900	29	2900	29
30	3000	30	3000	30	3000	30	3000	30	3000	30	3000	30
31	3100	31	3100	31	3100	31	3100	31	3100	31	3100	31
32	3200	32	3200	32	3200	32	3200	32	3200	32	3200	32
33	3300	33	3300	33	3300	33	3300	33	3300	33	3300	33
34	3400	34	3400	34	3400	34	3400	34	3400	34	3400	34
35	3500	35	3500	35	3500	35	3500	35	3500	35	3500	35
36	3600	36	3600	36	3600	36	3600	36	3600	36	3600	36
37	3700	37	3700	37	3700	37	3700	37	3700	37	3700	37
38	3800	38	3800	38	3800	38	3800	38	3800	38	3800	38
39	3900	39	3900	39	3900	39	3900	39	3900	39	3900	39
40	4000	40	4000	40	4000	40	4000	40	4000	40	4000	40
41	4100	41	4100	41	4100	41	4100	41	4100	41	4100	41
42	4200	42	4200	42	4200	42	4200	42	4200	42	4200	42
43	4300	43	4300	43	4300	43	4300	43	4300	43	4300	43
44	4400	44	4400	44	4400	44	4400	44	4400	44	4400	44
45	4500	45	4500	45	4500	45	4500	45	4500	45	4500	45
46	4600	46	4600	46	4600	46	4600	46	4600	46	4600	46
47	4700	47	4700	47	4700	47	4700	47	4700	47	4700	47
48	4800	48	4800	48	4800	48	4800	48	4800	48	4800	48
49	4900	49	4900	49	4900	49	4900	49	4900	49	4900	49
50	5000	50	5000	50	5000	50	5000	50	5000	50	5000	50
51	5100	51	5100	51	5100	51	5100	51	5100	51	5100	51
52	5200	52	5200	52	5200	52	5200	52	5200	52	5200	52
53	5300	53	5300	53	5300	53	5300	53	5300	53	5300	53
54	5400	54	5400	54	5400	54	5400	54	5400	54	5400	54
55	5500	55	5500	55	5500	55	5500	55	5500	55	5500	55
56	5600	56	5600	56	5600	56	5600	56	5600	56	5600	56
57	5700	57	5700	57	5700	57	5700	57	5700	57	5700	57
58	5800	58	5800	58	5800	58	5800	58	5800	58	5800	58
59	5900	59	5900	59	5900	59	5900	59	5900	59	5900	59
60	6000	60	6000	60	6000	60	6000	60	6000	60	6000	60
61	6100	61	6100	61	6100	61	6100	61	6100	61	6100	61
62	6200	62	6200	62	6200	62	6200	62	6200	62	6200	62
63	6300	63	6300	63	6300	63	6300	63	6300	63	6300	63
64	6400	64	6400	64	6400	64	6400	64	6400	64	6400	64
65	6500	65	6500	65	6500	65	6500	65	6500	65	6500	65
66	6600	66	6600	66	6600	66	6600	66	6600	66	6600	66
67	6700	67	6700	67	6700	67	6700	67	6700	67	6700	67
68	6800	68	6800	68	6800	68	6800	68	6800	68	6800	68
69	6900	69	6900	69	6900	69	6900	69	6900	69	6900	69
70	7000	70	7000	70	7000	70	7000	70	7000	70	7000	70
71	7100	71	7100	71	7100	71	7100	71	7100	71	7100	71
72	7200	72	7200	72	7200	72	7200	72	7200	72	7200	72
73	7300	73	7300	73	7300	73	7300	73	7300	73	7300	73
74	7400	74	7400	74	7400	74	7400	74	7400	74	7400	74
75	7500	75	7500	75	7500	75	7500	75	7500	75	7500	75
76	7600	76	7600	76	7600	76	7600	76	7600	76	7600	76
77	7700	77	7700	77	7700	77	7700	77	7700	77	7700	77
78	7800	78	7800	78	7800	78	7800	78	7800	78	7800	78
79	7900	79	7900	79	7900	79	7900	79	7900	79	7900	79
80	8000	80	8000	80	8000	80	8000	80	8000	80	8000	80
81	8100	81	8100	81	8100	81	8100	81	8100	81	8100	81
82	8200	82	8200	82	8200	82	8200	82	8200	82	8200	82
83	8300	83	8300	83	8300	83	8300	83	8300	83	8300	83
84	8400	84	8400	84	8400	84	8400	84	8400	84	8400	84
85	8500	85	8500	85	8500	85	8500	85	8500	85	8500	85
86	8600	86	8600	86	8600	86	8600	86	8600	86	8600	86
87	8700	87	8700	87	8700	87	8700	87	8700	87	8700	87
88	8800	88	8800	88	8800	88	8800	88	8800	88	8800	88
89	8900	89	8900	89	8900	89	8900	89	8900	89	8900	89
90	9000	90	9000	90	9000	90	9000	90	9000	90	9000	90
91	9100	91	9100	91	9100	91	9100	91	9100	91	9100	91
92	9200	92	9200	92	9200	92	9200	92	9200	92	9200	92
93	9300	93	9300	93	9300	93	9300	93	9300	93	9300	93
94	9400	94	9400	94	9400	94	9400	94	9400	94	9400	94
95	9500	95	9500	95	9500	95	9500	95	9500	95	9500	95
96	9600	96	9600	96	9600	96	9600	96	9600	96	9600	96
97	9700	97	9700	97	9700	97	9700	97	9700	97	9700	97
98	9800	98	9800	98	9800	98	9800	98	9800	98	9800	98
99	9900	99	9900	99	9900	99	9900	99	9900	99	9900	99
100	10000	100	10000	100	10000	100	10000	100	10000	100	10000	100

[illegible]

註

一 現耕地の改良に依る米増収量は實績に依り一反歩に付四斗一升として計算せり

刺地擴張田の米收量は開田初年に於ては熟田收量の三割とし爾後毎年一割宛を増加し八年目に至り熟田に達するものとして計算せり

三
熟田の米收量は最近の平均收量一反歩に付一石七斗四升七合を基礎とし農事改良に依り三十三年間に三斗（毎年一升の割合）を増加して二石〇四升七合に達するものとして計算せり

農事改良に依り現在作付面積より舉ぐへき米の増收は三十年間に一反歩に付三斗毎年平均一升とす但し基礎數字は稍古き統計に依りたる關係上最初の年は二升の増收あるものとせり、現在作付面積三、〇五四千町は大正五年現在なり

陸稻の作付面積は開墾畑に在りては三割とし現在畑に在りては從來増加の状況に依り三十年間に現在の二割に達する

五 陸稻の作付面積は開墾畑に在りては三割とし現在畑に在りては從來増加の狀況に依り三十年間に現在の二倍に達する

ものとして計算せり

- 六 陸稻の作付面積増加に依る米收量は最近の平年收量一反歩に付九斗五升六合を基礎とし農事改良に依り三十年間に二斗(毎年六合乃至七合の割合)を増加して一石一斗五升六合に達するものとして計算せり但し前記開墾田の場合と同様の割合を以て地味未成熟の際減收あるものと見積れり、但し水稻の例に依り最初の年は一升四合の増收あるものとす
- 七 北海道の耕地擴張田の米收量は熟田に付最近の平年收量一反歩に付一石三斗四升八合を基礎とし農事改良に依り三十年間に三斗(毎年一升の割合)を増加して一石六斗四升八合に達するものとして計算せり

八 朝鮮臺灣よりの移入は各總督府の調査に依る

都合よく右表の豫定するが如き成績を上げ得るものとすれば、今後十年にして既に米穀増收約千萬石(内移入量三百五十餘萬石)に及び、二十年目には二千二百餘萬石(内移入量五百十餘萬石)の増收を得、三十年にしては實に三千二百餘萬石(内移入量七百七十餘萬石)の増收を齎すこととなる次第であつて、洵に大したものといはなければならぬ。

第三表 麥の増收豫定表

年次	現耕地改良		内地の耕作		地擴張		農事改良に依る増收		北海道の耕地擴張		朝鮮及臺灣よりの移入		總計
	面積	増収量	開墾助成に依るもの	同様に依らざるもの	面積	増収量	面積	増収量	面積	増収量	面積	増収量	
一	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000
二	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000
三	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000	11,000,000	1,000,000	1,000,000	11,000,000

第八卷 (第三號 一二一) 四一五

二七	〃	九・〇・三	九二・八	一・四・四・八	〃	一・四・四・〇・〇	〃	二・〇・三・五	五・〇・〇・〇	一・四・四・〇・〇	二・〇・六	三・六・七・一・〇
二八	〃	一・〇	九三・三	一・四・四・五	〃	一・四・四・七	〃	二・一・一・五	五・〇・〇・〇	一・四・四・〇・〇	二・〇・六	三・六・七・一・〇
二九	〃	九・〇・七	九三・〇	一・四・四・三	〃	一・四・四・五	〃	二・一・一・五	五・〇・〇・〇	一・四・四・〇・〇	二・〇・六	三・六・七・一・〇
三〇	〃	九・〇・八	九三・一	一・四・四・二	〃	一・四・四・八	〃	二・一・一・五	五・〇・〇・〇	一・四・四・〇・〇	二・〇・六	三・六・七・一・〇

註

一 現耕地の改良に依る麥の増収量は實績に依り一反歩に付四升五合を基礎とし將來裏作の増進を見込み三十年間に四升五合(毎三年に五合の割合)を増加して九升到達するものとして計算せり

二 内地の耕地擴張田の麥裏作面積は現在の三割を基礎とし三十年間に二割(毎年六厘乃至七厘)を増加して五割に達するものとして計算せり

三 内地の耕地擴張畑の麥作付面積は七割と見積れり

四 熟田畑の麥収量は最近の平年収量一反歩に付一石二斗五升五合を基礎とし農事改良に依り三十年間に三斗(毎年一升の割合)を増加して一石五斗五升五合に達するものとし地味未成熟の際に於て減収ある割合は米の場合に等しきものと見積れり

五 農事改良に依り現作付面積より舉ぐべき麥の増収は三十年間一反歩に付三斗毎年平均一升とす但し米の例に依り最初〇千町は現作付面積一八〇〇千町は大正五年現在なり

六 北海道の耕地擴張畑の麥作付面積は二割と見積れり

七 北海道の耕地擴張畑の麥収量は熟畑に付最近の平年収量一反歩に付九斗七升二合を基礎とし三十年間に三斗(毎年一升の割合)を増加して一石二斗七升二合に達するものとして計算せり

八 朝鮮よりの移入は總督府の調査に依る

麥に於ても亦増収見込量は莫大なものである。即ち十年後に於て既に三百九十萬石の増収(内移入量七萬八千石)を見、二十年目には九百萬石(移入量十五萬六千石)の増収となり三十年目に

は實に千四百五十餘萬石(移入量一十二萬四千石)の收穫増加を見る豫定である。

米麥增收の豫定右の如くなるが故に此の計畫の能く遂行さるる曉に於ては、我國の主要食料品の供給状態は大いに面目を一新し需給の適合比年良好に向ひ、米穀は十三ヶ年にして既に早くも國內自給の状態を出現するを得、其の以後は永く其の状態を保つを得て年々多少宛の供給過剰を見然かも其の過剰は割合に少額なれば、敢て甚しく米價を抑壓下落せしむるに足るものにあらず、理想的なる自給状態を造り出すを得ることとなる。麥に就ても亦二十一年後に於て此の自給状態を造り得ることとなる。試に右の增收豫定の下に於ける政府の計算に依る米麥需給の對照狀況を示せば左の如し。

第四表 米麥需給對照表

年次	年 號	米			麥		
		增收豫定	不足豫定	差引殘餘	增收豫定	不足豫定	差引殘餘
現	大正八年在	一、三三八、千石	一、六八四、千石	一、六八四、千石	一、〇〇〇、千石	一、〇〇〇、千石	一、〇〇〇、千石
一	同 九 年	二、二五九、	二、五〇〇、	一、二四一、	八八九、	一、四〇〇、	八八九、
二	同 一〇 年	三、一〇二、	三、三九七、	二、二九五、	一、〇七五、	一、七〇〇、	九二五、
三	同 一 一 年	三、二九八、	三、六〇〇、	三、二九八、	一、一七五、	一、八〇〇、	九二五、
四	同 一 二 年	三、九八五、	四、二八〇、	三、九八五、	一、二七五、	一、九〇〇、	九二五、
五	同 一 三 年	四、六七二、	四、九六七、	四、六七二、	一、三七五、	二、〇〇〇、	九二五、
六	同 一 四 年	五、三六〇、	五、六五五、	五、三六〇、	一、四七五、	二、一〇〇、	九二五、
七	同 一 五 年	六、〇四七、	六、三四二、	六、〇四七、	一、五七五、	二、二〇〇、	九二五、

時事問題 食料問題と關聯助成計畫

商人等，
第三卷，
二二二

[illegible]

備考 肉太の數字は不足を示す

若し能く右の如き狀況を呈し得るものなりとせば、此の計畫の實行せらるる限り、我國將來の食料問題は先づ暫くの間は安神なものである。米麥は一粒も外國よりの輸入供給を仰かずとも、優に國內及び朝鮮臺灣に於ける生産を以て國民の總需要を充し得るに至るの望十分なるものあり、正常的狀態としては之に依りて食料問題の解決は行はるる筈である。従て其の計畫の有效にして推算の見事なるや、洵に賞歎に値するものと謂はねばならぬ。

四 自給主義乎共通主義乎

計畫は洵に立派であるが、之に關しては色々と考慮を要する問題がある。先づ第一に致ふ可きは、開墾助成の計畫が唯だ單純に國內に於ける土地の利用を十分にし食料品の生産を増加するといふだけの意味に止まるか、將又それが現今の流行たる自給政策なる大方針の下に行はんとするものなるかといふことである。而してそれが兩者は何れを目的とするかに依りて、其の效果に關しても其の利害に關しても判斷を異にし議論の岐れ來るを免れ難い。

若し開墾助成の計畫が唯單に土地の利用を十分にし食料品の生産を豊富にするといふだけの意味のものならば、大體に於てそが有利の計畫たることは誰しも之を認めざるを得ない。我國に尙ほ多くの未墾地の存し又土地の改良を要するものありて、然かもそが技術的に見て開墾及び改良の困難ならず、又之を經濟的に見て餘り多くの經費を要せず尙又其地の開かれたる曉に於て其上

に行はる可き穀物生産が割合に少き生産費を以てせらる可きことの確かならば其の確かなる範圍内に於て着々開墾を行ひ其の助成の爲めに國家が或程度の施設を爲すといふ事は、固より國家的に有利なる事業である。而して其の場合には開墾の行はる可き範圍は經濟的に定まり、開墾を行ひて經濟的に引合ふ限りは開墾の行はる可きも引合はされば誰しも之を行はんとはせざる可く、そはつまり、一方に於ては開墾の費用と其地に於てせらる可き穀物生産の費用と、他方に於ては穀物の價格との關係に依りて決定せらる可き筈である。

然るに若し開墾助成の計畫が所謂自給政策の爲めに行はるものなるに於ては、問題は然かく簡單なるを得ない。先づ第一に自給政策なるものそれ自體の實行の能不能、其の利害等につきて議論の生ぜざるを得ないのである。

自給政策なるものは決して今に初まりたるものではなく、獨逸の如きは夙に之が實行に取かつて居たのであるが、今回の大戰に依り英國流の自由放任政策が戰時狀態の下に於て種々の不便を示すを見るに至りてよりは、却つて英國などに於て反動的に盛に唱道せらるるに至り、我國に於ても殆んど流行的に朝野の間に喧唱せらるるに至つた。元來自給政策なるものは保護政策の一面たるに過ぎぬのであつて、そは固より國民食料品に就きて之を策し得可きと同時に、工業生産の諸方面に關しても亦然かするを得るものである。併し乍ら其の實行の能不能と其の利害とに至つては國により又其の行はる可き産業方面に依りて異らざるを得ない。我國に於て實行し得可きもの必ずしも他國に於て實行し得可からず、或産業に關して實行し得可きもの必ずしも他の産業

に關して實行し得可からず、或國或産業に關して有利なるもの必ずしも他の國他の産業に關して有利なるを得ぬ。

仍て今之を我國の問題として攷ふるに、我國に於て一般的に自給政策の旗を押立つることの不可能にして又不利なるや之を彼の製鐵業や紡績業の如き大工業につきてのみ見るも已に明かなる所である。而して之を農業に當欲めて攷ふるも、其が果して實行可能にして又有利なるや否やは所詮疑問たゞらるを得ぬ。政府の開墾助成計畫なるものは、何となく三十年計畫の自給方針の下に割り出されたるものの様に見ゆるが、實行上の計畫が果して前に示したる豫定數字通りの好成績を上げ得可きや否やの既に疑問たるのみならず、其の利害に關しては更に大いなる疑問の起り來らざるを得ぬ。其の實績の緊がる所と國民經濟的に觀たる利害の岐る所とは、一には其の技術上の問題と經濟上の問題に存すると同時に、一には又米麥生産の量の問題と米麥價格の問題とに存する。此點に關しては先づ以て十分なる講究の行はれなくてはならぬ次第である。併し之を論ずるに先ちて吾人は一般的に食料品に關する自給政策なるものの可否といふ廣い問題につきて一瞥を與へなければならぬ。

吾人の觀る所を以てすれば食料品の如きは人類に共通なる可き性質の財であつて、或國が之に對して獨占的主張を爲し獨占的取扱を爲す可き性質のものでない。此事は工業原料品に就いても言ひ得可き所であるが、食料品の如く直接に人の生命に關係ある物に就きては最も然る所である。されば今或國が食料品につきて極端なる自給主義を取り其の政策を行ふといふことは、人類が其

の生存に關して平等の權利を有し相助共済に依り共に榮へ共に發達し行く可き大原則と矛盾するものである。若し或國民が他の國民は餓死するとも我獨り飽食鼓腹すれば可なりといふ態度を取るあらば、其の國民は現今の文明的なる世界的交通の仲間たる資格なきもの、人類共同の繁榮を阻礙し共助の精神を破壊するものとして人類一般の排斥を受けねばならぬ。此の見地よりして食料品の如きに關しては排他的にして獨善的なる自給政策の立せらるるを可とす可きものにあらずして、世界共通の大原則が諸國に依りて認められなくてはならぬ。

固より我國は世界の諸國と共に人類全體の幸福と諸國民の繁榮に關する機會均等の大原則との爲めにこそ努力す可けれ、他國のみ榮へ他國のみ便宜を得て我國の之に加はる得ざるが如き待遇を受くるを肯んぜざるが如く、又我國獨り榮へ獨り便宜を得て他國の事は關知せずといふが如き態度と政策とは極力之を排斥せなければならぬ。されば今我國が食料に關して自給政策なるものを樹立せんとするが如きは甚だ當を得ざるもので、開墾助成計畫の如きも、若し此の政策の爲めに行はるるものなりとせば、それは先づ根本に於て誤れる基礎の上に立つものと謂はなければならぬ。(本年一月十二日より十六日に至る大阪朝日新聞掲載拙稿『戰後諸國の食料問題』參照)

五 量の問題と價の問題

開墾の助成に依りて食料品の生産増加を行はんとする計畫が計畫通り果して能く成功す可きや否や、又それが國民經濟上に齎す利害如何につきて講察せんが爲めには、我等は進むで量の問題と價の問題とを併せ致へて見なければならぬ。即ち此の計畫に依りてただ單に生産上増加さる可き

米麥の數量をのみ見る可きか、將又數量と同時に米麥の價格を致へ兩者の適合に依る増殖の程度を思ひ見る可きか、量のみ増せば可なりとす可きか、量を増すと同時に價の相當に安からんを必要とすと爲す可きか。問題の岐るる所は此所である。

若し開墾助成に依る米麥増殖の計畫が自給政策の爲めに行はるるものなるに於ては量の問題は洵に重大な問題である。自給の状態を完全に作り得んが爲めには、我國に於ける米麥類の國民的總需要は悉く之を國內に於ける生産に依りて供給するを得、外國より一粒の輸入を仰がずとも能く我が國民を鼓腹するを得せしめなくてはならぬ。即ち總需要に對して總供給量が十分なりといふことを必要とし、是を以て政策の眼目とする。此の政策の下に於ては國家は外國よりの輸入米麥に對して關稅の障壁を高くし、その猥りに國內に流入して國內の米麥價を低下せしめ、以て開墾が豫定通り行はれざるの結果に陷るを防がなくてはならぬ。以て米麥自給狀態を作り出す計畫の失敗に終るを防がなくてはならぬ。かるが故に此の政策の下に於ては若し開墾されたる土地に開墾上多大の費用を要し、又開墾地の地質惡きか其他自然的或は經濟的理由に依りて其の生産能力十分ならず、從て其地に於て行はるる米麥生産は多大の費用を要することとなり、其の米麥は現時の正常的米麥價よりも更に高價に之を賣るにあらざれば其地の米麥作の引合はざる事情に遭遇すれば、米麥の價格は其の限界生産費の現今よりも増加する結果として、現状よりも其の正常的標準を高めざるを得ざるることとなる。斯くて國民は國內に於て生産されたる米麥にて供給に事を缺かざる境遇にこそ到達しつれ、隨分高價なる米麥を常食とせなければならぬこととなり、量足りて價高き狀態に満足せなければならぬ。其の場合に若し米麥價の餘りに高きに達して

國民に怨嗟の聲高くなるも、國家は依然として高き關稅を設けて外國米の輸入を防止せざるを得ぬ。若し米麥價の下落を招致せんが爲めに關稅の障壁を低うせば米麥價は下る代りに開墾地の米麥作は不引合となりて其の上に於ける生産の漸次に休止せられ、斯くて聽て食料自給の狀態は破れ、折角の政策は瓦解するを免れ得ぬ。されば若し其の場合政府が自給の狀態は之を保ち乍ら國民には安價なる食料を得せしめんと欲するならば高き生産費を要する限界生産地の生産者に損失を補償して其等を繼續せしむるの助を爲さなければならぬこととなる。其の以外に道はないのである。併し之は行はれ得可き事でないから結局國民は食料の量足りて價高きに苦まざるを得ざるに至る可きや明かである。

尤も此の事情は現存の未開墾地が何れも豐饒の沃土であつて其の開墾にも少き經費を以て足るもののみならば、却つて反對に量増して同時に價も低きに至る結果を齎す可きであるが、現存の未墾地が何れも然りと誰が主張し得る者ぞ。開闢以來現今に至るまで未墾地として遣されたるには皆相當の理由あり、或は水利の點に於て或は地質の點に於て、或は場所の關係に於て兎も角自然的に又經濟的に開墾の有利に行はれ難き事情あるが爲めに今日まで開墾されずに遣されたものである。されば今此等を開墾することによりて我國に於ける米麥生産上に於ける限界生産費を低下せしめ得て、米麥の價格標準を低下せしめ得可しとは先づ致へられぬ。然か致ふるよりも前に吾人の示せる如く限界生産費を増加し米麥價標準を上騰せしむるの結果を齎す可しと考ふる方が合理的である。

然るに開墾助成に依る米麥増産の計畫が斯かる自給政策の必要の爲めに其の目的を以て行はるるものたらず、國民食料品に關する政策はなる可く之を自由にして單純にただ米麥の國內生産量を増すといふ目的を以て行はるるものたれば奈何。此の場合に於ては開墾の行はるると否とは常に米麥の價格を目安として定まり、米麥の價格と生産費との釣合を見て開墾の引合ふと否との見定められ、引合ふと見れば開墾を行ひ引合はずと見れば開墾は行はれず、又米麥作付の行はるると否とも此の目安に依りて行はるるに過ぎぬ。然るに國家は敢て自給方針に拘泥するものにあらずれば、高き關稅を設けて内地の米麥價を下落せしめざるに努め以て開墾をして有利に行はるるを得せしめ以て計畫通りの開墾の實地に行はるるを必要とせぬ。されば政府は國內の米麥價高きに過ぎて國民に困難の狀態あれば自ら進むで外國米の輸入をも獎勵するを得可く、強いて國內消費者一般の利益を犠牲にして高き生産費を要する開墾地の開發と米麥作との行はるるを可能ならしむる必要はない。要するに此の場合に於ては關稅政策等に依りて國內の米麥價は人爲的に高きに保たるることなく、そはただ自由なる政策の下に世界的なる需給の實際關係に依りて定まり、開墾も米麥の生産も共に唯だ其の價格を目安として引合へば行はれ引合はざれば行はれざる迄の事なれば、其の能く行はるるは之を行ひて經濟的に有利なるが爲めたるに外ならず、從て其の能く行はるるだけは國民經濟上の利得であつて、何人の利益も之が爲めに犠牲に供せらるることはない。

凡て右論するが如くなるを以て開墾の事業はただそが技術的に可能なりといふだけで以て其の

助成の是非を判斷す可きものではなく、必ずや同時に其の經濟上の利害を致へなくてはならぬ。而して其の經濟的利害を致ふるに就けては國民の常食品たる米麥はただに其の生産量を大にするといふだけを以て満足せず、同時に又必ずや其の價格をして餘りに高價ならしめざるに注意せなければならぬ。從て開墾を助成す可きや否やは、之に依りて能く米麥價を騰貴せしむるの恐なく寧ろ之を低下せしむるの望あるに於て其の可否を決せなければならぬ。唯だ徒らに自給の美名に惑ひて深く其の是非を致ふるの暇もなくただ數量をさへ増せば可なりとして卒然として其の計畫を立て國費を投じて之を援助するが如きあらば吾人不幸にして其の可なる所以を見出し得ぬ。

惟ふに今回政府の計畫に成れるものの如きは這邊の願慮は十分に行はれたる上の推算に基くものであらうから、それは自給政策なるものとは無關係に、ただ從來有利に開發せらる可くして然かも何等か自然的又は經濟的又は社會的なる理由の爲めに開發さるるなくして遣りしものを、此際國家の援助の下に速かに開發せしめ、以て國民の食料品供給を裕かにし從て其の價格を相當に低安ならしめんとする意味に外ならぬものとして、之を迎へたいものである。而して今後實行上に於ても常に此の意味に於て其業の遂行されむことを吾人は希望せざるを得ぬ。一方に世界的なる食料共通の大原則を確立し能く之を守ると同時に、他方に於て國內の生産力を増加するが爲めに種々の計畫を立て國家的施設を爲すは毫も矛盾する所なきのみならず、總て之れ人類全般の福祉を増すに貢獻する所以なれば、吾人は此の意味に於て開墾助成の如き事業は大に行はれんことを希望せざるを得ないのである。(終)